

第2次氷川町総合振興計画／施策評価シート(令和2年度)

施策コード	P5101
-------	-------

【基本構想／施策の体系】

基本構想	5 地域の未来	施策の体系	01.安全・安心な暮らしを守る防災・減災の推進
施策の方針	<p>身近な地区での防災・減災を推進するため、地区防災計画の策定及び更新を通じて地区の体制の強化を図るとともに、必要な施設・設備の充実を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消防・防災体制の強化を図る ・ 氷川町建築物耐震改修促進計画に基づいた建築物の耐震化を促進する 		

担当部署	主管課	総務課
	関係課1	建設下水道課
	関係課2	
	関係課3	

【施策の現状】

施策の現状、 取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【消防力の充実と強化】 地区要望による消火栓の新設が2件、消防倉庫等の修繕等が4件、小型動力ポンプの耐用年数超過による更新が2件であった。 ・ 【防災ハザードマップ作成・更新】 令和2年度において更新作成済み。 ・ 【防災備蓄倉庫の整備・充実】 当初計画のとおり平成27年度～令和元年度の5年間で27,000食の備蓄を目標に整備を行ってきた。27,000食分の備蓄に達したため、今後は期限が過ぎた備蓄品の更新等を実施していく。 ・ 【一時避難所の整備】 防災公園のうち野津防災公園については、令和2年度に竣工・開園式を終了し供用を開始。宮原防災公園については、令和2年度より整備工事に着手し令和3年7月に開園となった。網道防災公園については、令和2年度で用地を取得済み。 ・ 【自主防災組織育成事業】 平成30年度までに町内全39地区において地区防災計画に伴う組織作りが完了し、今後は、自主防災訓練計画確認や防災訓練の協力支援を行っていく。 ・ 【地区防災計画の策定及び更新支援】 令和2年度の氷川町防災会議において全39地区の地区防災計画が氷川町地域防災計画に定められた。今後は、情報の改訂および更新等の協力支援を行っていく。 ・ 【防災行政無線デジタル化事業】 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う海外品工場の閉鎖により、国内への部品調達が困難に陥り、平成29年度～令和元年度の計画期間内に完了することができなかったが、令和2年度に事業完了。 ・ 【建築物の耐震化等支援】 地震防災マップを活用し、建築物の耐震診断・改修促進及び普及啓発を図るため計画に基づいた建築物の耐震化に向けた支援を実施する。氷川町建築物耐震改修促進計画（平成29年6月策定）に基づき、耐震化の目標達成に向けた既存建築物の耐震診断や改修を総合的かつ計画的に促進する。
------------------	--

【事業名称、指標名】

No.	事業名称	R2事業費 (決算:千円)	担当課	指標名	基準値 (H29)	H30年度 実績	R元年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	最終目標 (R9)	進捗 評価
1	消防力の充実と強化	21,458	総務課	消防施設整備(小型ポンプ等更新)地区(件)	12	9	8	2			12	B
2	防災ハザードマップ作成・更新	3,463	総務課	防災ハザードマップ作成・更新率(%)	0	0	0	100			100	A
3	防災備蓄倉庫の整備・充実	4,640	総務課	防災備蓄用品の確保(食)	20,552	24,552	27,000	24,752			27,000	B
4	一時避難所の整備	121,969	総務課	防災公園の整備率(%)	0	0	60	70			100	A
5	自主防災組織育成事業	0	総務課	自主防災訓練の実施(地区)	39	39	39	16			39	B
6	地区防災計画の策定及び更新支援	0	総務課	地区防災計画の策定(更新)地区数(地区)	29	39	30	36			39	A
7	防災行政無線デジタル化事業	208,849	総務課	整備率(%)	1.27	58.89	72.44	100			100	A
8	建築物の耐震化等支援事業	2,000	建設下水道課	木造住宅耐震化率(%)	48.8	50	51	53			90	B
9												

【今後の方針】

施策の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・【防災備蓄倉庫の整備・充実】一元管理が望ましいが他課からの備蓄品のニーズを考えれば検討する余地がある。 ・【自主防災組織育成事業】及び【地区防災計画の策定及び更新支援】地区住民への周知が必要である。 ・【防災行政無線デジタル化事業】新たな防災アプリや機器の導入等を行ったので、操作の習得が課題。 ・【建築物の耐震化事業】相談はあるものの、工事費用が多額となるなどの理由により実施数が少ない状況である。
今後の施策展開	<ul style="list-style-type: none"> ・【防災ハザードマップ作成・更新】冊子版及びWEB版を作成し、氷川町内全戸に配布したのでハザードマップ情報が身近に確認できるようになる。 ・【地区防災計画の策定及び更新支援】これまでは行政主導で策定を行っていたが、最近では、県内でも甚大な災害が発生していることから、地区・地域住民の方から、再度地域を見つめなおす動きが出ている。この動きを支援していくことが必要。 ・【防災行政無線デジタル化事業】最近の異常災害に対応すべく防災アプリを導入したので、今後は操作習得に向けて職員研修を実施していく。また、防災行政無線等の防災の発信における情報伝達手段についてもSNS等を通じて迅速に的確な情報を発信できる体制を整える。 ・【建築物の耐震化事業】耐震診断及び耐震改修への支援、リフォームに併せた耐震化の誘導、耐震改修促進に関する税制措置の紹介、氷川町戸建て木造住宅耐震改修等事業の活用について、広報紙や町HPで事業の活用を促す。

【評価指標】

A: 目標に向かって順調に進んでいる
 B: 目標に向かってある程度進んでいる
 C: 目標に向かってあまり進んでいない
 D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
 総合評価の目標: 施策の方針

総合評価	A
------	---

【今後の方針】

施策の課題	<ul style="list-style-type: none">・ コロナ感染症対策により、会合・研修会等の自粛から、各種講習会の受講や、パトロール活動の減少が危惧される。・ 耳目をひく事案の発生はなく、慣れからくる警戒心の希薄化が懸念される。・ 高齢化、過疎化に伴う、連帯意識の空疎化が憂慮される。
今後の施策展開	<ul style="list-style-type: none">・ 限られた予算の有効活用、目標達成に向けた効果的施策を検討する。・ 住民の防犯意識高揚、防犯行動への参加意識を高める啓発活動を推進する。

【評価指標】

A: 目標に向かって順調に進んでいる
B: 目標に向かってある程度進んでいる
C: 目標に向かってあまり進んでいない
D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
総合評価の目標: 施策の方針

総合評価	B
------	---

【今後の方針】

<p>施策の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・【交通安全対策の強化】高齢化の進む交通ボランティアの後継者確保 ・【交通安全教育の充実】交通安全運動期以外の意識啓発活動の継続 ・【交通安全施設整備事業】交通安全施設の老朽化に伴う改善改修の増加と予算確保
<p>今後の 施策展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・【交通安全対策の強化】再び1名減となった有償ボランティア員の補完 ・【交通安全教育の充実】感染防止対策を踏まえた、交通安全意識啓発活動の推進 ・【交通安全施設整備事業】優先順位をつけた交通安全施設の改善改修推進

【評価指標】

A: 目標に向かって順調に進んでいる
 B: 目標に向かってある程度進んでいる
 C: 目標に向かってあまり進んでいない
 D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
 総合評価の目標: 施策の方針

<p>総合 評価</p>	<p>B</p>
------------------	----------

第2次氷川町総合振興計画／施策評価シート(令和2年度)

施策コード	P5201
-------	-------

【基本構想／施策の体系】

基本構想	5 地域の未来	施策の体系	01.古墳をはじめとする歴史的資源の保全、整備
施策の方針	<p>古墳群などの拠点的な歴史的資源の保全や環境整備とともに、歴史資料の収集・保存及び活用のためのPR活動を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的資源の環境整備を進める ・歴史資料の整備・活用を進める ・各地域での歴史的資源調査の実施及び保全・改善活動を支援する 		

担当部署	主管課	生涯学習課
	関係課1	地域振興課
	関係課2	
	関係課3	

【施策の現状】

施策の現状、取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・【野津古墳群・大野窟古墳整備事業】野津古墳群・大野窟古墳保存活用計画書が策定されたが、大野窟古墳の災害復旧事業を優先している状況である。令和2年度で事業が終了した。 ・【歴史古墳ツーリズム・散策ルート環境整備事業】定期的な文化財の草刈り等を実施している。 ・【歴史的資源に関する資料の収集・整理及びPRの推進】史跡を保存しこれを後世に伝えるため、資料の収集を行う。 ・【町史編纂事業】町史編纂に向け、旧町の町史を基に関係資料の収集を行い、町内全域の確認調査等を実施している。 ・【各地区のまちづくり活動支援（歴史資源の保全・PR）】地区に存在する文化財や史跡などを紹介する看板の設置を行政区活動活性化補助金制度で支援している。 ・【各地域の伝統的な祭り情報の収集とPR、保存・継承】地域や保存会の活動に対して助成を行っている。
--------------	---

【事業名称、指標名】

No.	事業名称	R2事業費 (決算:千円)	担当課	指標名	基準値 (H29)	H30年度 実績	R元年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	最終目標 (R9)	進捗 評価
1	野津古墳群・大野窟古墳整備事業	13,409	生涯学習課	大野窟古墳の復旧	保存活用 計画策定	大野窟古 墳の地震 復旧優先	大野窟古 墳の地震 復旧優先	大野窟古 墳の地震 復旧			完了	A
2	大王山古墳群の活用	0	生涯学習課	古墳群全域の把握・踏査(%)	0	0	0	0			完了	C
3	歴史古墳ツーリズム・散策ルートの 環境整備事業【再掲】	2,193	生涯学習課	草刈等の実施カ所(カ所)	17	10	17	18			20	B
4	歴史的資源に関する資料の収集・整 理及びPRの推進	0	生涯学習課	国県指定文化財パンフレットの 種類(種類)	4	4	4	4			9	B

5	町史編纂事業及び歴史的資源PR冊子の作成	0	生涯学習課	宮原地区踏査(%)	40	40	0	0			完了	C
6	各地区のまちづくり活動支援(歴史資源の保全・PR)	0	地域振興課	文化財・史跡の看板設置	一部設置	一部設置	要望なし	要望なし			設置完了	B
7	各地域の伝統的な祭り情報の収集とPR、保存・継承	170	生涯学習課	学校への伝統芸能紹介例(例)	1	0	0	0			4	C
8												

【今後の方針】

施策の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・【野津古墳群・大野窟古墳整備事業】令和2年度に大野窟古墳の災害復旧事業が終了したので、大野窟古墳について今後は経過観察を行い、保存計画により事業を推進する。 ・【大王山古墳群の活用】大王山古墳群を適切に保存し、適切な管理を行う。 ・【町史編纂事業】旧町の町史を基に関係資料の収集を行う必要がある。 ・【各地区のまちづくり活動支援(歴史資源の保全・PR)】各地区より要望があった際に地区別計画に基づき交付金対象とするが、要望は極めて少ない。 ・【各地区の伝統的な祭り情報の収集とPR、保存・継承】伝統文化が廃れないように、地区や保存会活動に対し助成を行っているが、各地区の人口減等により活動ができない団体が出てきている。
今後の施策展開	<ul style="list-style-type: none"> ・【野津古墳群・大野窟古墳整備事業】野津古墳群等の活用に取り組む必要がある。 ・【大王山古墳群の活用】大王山古墳群を適切に保存し、適切な管理を行う。 ・【町史編纂事業】旧町の町史を基に関係資料の収集を行う必要がある。 ・【各地区のまちづくり活動支援(歴史資源の保全・PR)】各地区の歴史資源の由来を学ぶ活動も実施すべきと考える。(伝統行事実施に係る歴史学習など) ・【各地域の伝統的な祭り情報の収集とPR、保存・継承】各地域にあった伝統的な祭りや伝統芸能の情報を集め、地域学校協働本部事業等と連携して各地域の祭りや伝統芸能を保存・継承できるように勧める。

【評価指標】

- A: 目標に向かって順調に進んでいる
 B: 目標に向かってある程度進んでいる
 C: 目標に向かってあまり進んでいない
 D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
 総合評価の目標: 施策の方針

総合評価	B
------	---

第2次氷川町総合振興計画／施策評価シート(令和2年度)

施策コード	P5202
-------	-------

【基本構想／施策の体系】

基本構想	5 地域の未来	施策の体系	02.地域の伝統・文化の継承のための地域活動の推進と人材の育成
施策の方針	<p>身近な地域の歴史的資源や伝統文化の保全・継承への取り組みを支援するとともに、担い手となる人材の育成に努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地域における伝統・文化の継承のための地域活動を支援する ・活動を担う人材育成を進める 		

担当部署	主管課	地域振興課
	関係課1	生涯学習課
	関係課2	
	関係課3	

【施策の現状】

施策の現状、取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・【伝統事業への支援（地蔵まつり、納涼祭支援）】宮原振興局周辺で開催される地蔵まつり及び納涼祭開催のための助成や準備、運営の支援を行う。令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により主催団体において中止の判断が行われた。 ・【伝承館管理業務・各種クラブ活動支援】伝承館の維持管理及び活用促進を行う。令和2年度においては高齢化による活動団体の休止が1件あったことに加え、新型コロナウイルス感染症の影響により、施設閉鎖もあったところから利用者の減少、活動の縮小が顕著であった。 ・【住民自治によるまちづくり活動支援事業（伝統行事関連）】どんどや、祭りなどの地区の伝統行事に対して、地区コミュニティの向上と保存・再生活動を促すことを目的に、行政区活動活性化交付金による財政的な支援を行う。 ・【文化祭を活用した地域の伝統・文化のPR活動支援】各地域における伝統・文化の継承のため補助金を交付している。 ・【歴史・伝統・文化に関する人材育成】歴史、郷土史等に興味がある新たな人材を発掘するため、文化協会加盟団体の歴史研究会の活動支援を実施している。しかしながら新型コロナウイルス感染症の拡大により活動が難しい。
--------------	---

【事業名称、指標名】

No.	事業名称	R2事業費 (決算:千円)	担当課	指標名	基準値 (H29)	H30年度 実績	R元年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	最終目標 (R9)	進捗 評価
1	伝統事業への支援(地蔵まつり、納涼祭支援)	0	地域振興課	地蔵まつり参加者数(人)	2,000	2,000	2,000	中止			3,000	B
2	伝承館管理業務・各種クラブ活動支援	463	地域振興課	伝承館利用人数(人)	929	671	729	466			1,000	C
3	住民自治によるまちづくり活動支援事業(伝統行事関連)	0	地域振興課	取組地区数(地区)	8	4	25	16			8	B
4	文化祭を活用した地域の伝統・文化のPR活動支援	0	生涯学習課	文化祭入場者数(人)	1,500	1,500	1,500	中止			1,700	B

5	歴史・伝統・文化に関する人材育成	0	生涯学習課	研究会活動回数(回)	6	6	6	中止			8	B
6												

【今後の方針】

【評価指標】

施策の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・【伝承館管理業務・各種クラブ活動支援】クラブ活動において後継者の育成など実施しているが若い世代の参入が少なく滞っている状況にある。 ・【住民自治によるまちづくり活動支援事業（伝統行事関連）】各地区当初の事業計画としては挙げられていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止する地区が多く見られた。 ・【文化祭を活用した地域の伝統・文化のPR活動支援】各地域での伝統行事等が途絶えないように支援を行う必要がある。 ・【歴史・伝統・文化に関する人材育成】町内におられる歴史・郷土史等に興味がある新たな人材を発掘する必要がある。
今後の施策展開	<ul style="list-style-type: none"> ・【伝承館管理業務・各種クラブ活動支援】新型コロナウイルス感染症拡大状況を見て利用団体を募集し、継続した活動の拠点としての利用促進と既存団体の活動維持と後継者の育成。 ・【住民自治によるまちづくり活動支援事業（伝統行事関連）】引き続き支援を実施するとともに、伝統行事関連の地区別計画を立てており、未実施の地区において支援の周知、実施の助言等行う。 ・【文化祭を活用した地域の伝統・文化のPR活動支援】文化祭で、各地区の保存・再生活動の成果を発表する機会を作り、町民に周知するとともに活動を盛り上げて町民の文化意識を高める。 ・【歴史・伝統・文化に関する人材育成】文化財や歴史を題材とした公民館講座等を開催し、新たな人材の発掘を行う。

- A: 目標に向かって順調に進んでいる
 B: 目標に向かってある程度進んでいる
 C: 目標に向かってあまり進んでいない
 D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
 総合評価の目標: 施策の方針

総合評価	B
------	---

【今後の方針】

施策の課題	・ 町内の歴史的資源に触れ、親しむための散策ルートを開拓する必要がある。
今後の 施策展開	・ 散策ルートの定期的な草刈り並びに看板の更新等を行っていく必要がある。

【評価指標】

A: 目標に向かって順調に進んでいる
B: 目標に向かってある程度進んでいる
C: 目標に向かってあまり進んでいない
D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
総合評価の目標: 施策の方針

総合 評価	B
----------	---

第2次氷川町総合振興計画／施策評価シート(令和2年度)

施策コード	P5301
-------	-------

【基本構想／施策の体系】

基本構想	5 地域の未来	施策の体系	01.住民自らが参画し、住民が主役となるまちづくりの支援
施策の方針	<p>住民が主体的にまちづくりに関わる機会を創出するとともに、継続的な参加のための仕組みや体制づくりを支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地域及び全町でのまちづくりへの参加機会を創出する ・まちづくり参加の仕組みや体制づくりを進める ・各地域でのまちづくり活動助成を進める ・各地域でのまちづくり活動支援の制度、体制づくりを推進する 		

担当 部署	主管課	地域振興課
	関係課1	総務課
	関係課2	企画財政課
	関係課3	生涯学習課

【施策の現状】

施策の現状、 取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・【地区別計画の推進支援】計画に基づく地区づくり活動の指導・助言を行っている。 ・【総合振興計画の進行管理】第2次総合振興計画の着実な推進を図るため、行政による内部評価及び総合振興計画審議会による外部評価を実施し、評価結果については町ホームページで公表し計画の進行管理を行った。行政評価システムを活用し実施計画書及び施策評価表の作成を行っている。 ・【氷川まつりなどのイベントへの参画、住民交流】まつり開催による住民の融和や町外者との交流、交流人口の拡大、町の特産品のPRを図る予定だったがコロナの影響により中止とした。 ・【まちづくり条例の運用】宮原地区において土地開発事業及び建築行為等に対する規制、誘導を行っている。 ・【住民自治組織の育成】計画に基づいた住民自治活動への支援・助言を行っている。 ・【住民自治活動の広報・情報交流】地区づくり活動について他地区での取り組み等を紹介し地区活動の醸成を図ったが、地区での取り組みは無かった。 ・【まちづくりの運営体制の強化】未実施 ・【住民自治によるまちづくり活動支援事業】まちづくり活動への活動支援、財政的支援を行っている。令和2年度においては新型コロナウイルス感染症の影響により活動の出来ない地区もあり、36地区のまちづくり活動の取組事業の支援を実施した。 ・【行政区活動活性化交付金】令和元年度より地区に対する各種補助金（地区活性化総合交付金、住民主役のまちづくり補助金、地区館助成金等）を統合し、行政区活動活性化交付金として運用し、各地区のまちづくり活動を支援している。 ・【地区公民館建設支援事業】地区活動拠点となる施設（地区公民館）充実のための補助を実施。 ・【地区館活動助成】令和元年度より行政区活動活性化交付金制度へ移行。 ・【地区づくり体制の確立】各地区において地区づくり会議を行うなど、地区づくり体制の確立を図っている。
------------------	---

【事業名称、指標名】

No.	事業名称	R2事業費 (決算:千円)	担当課	指標名	基準値 (H29)	H30年度 実績	R元年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	最終目標 (R9)	進捗 評価
1	地区別計画の推進支援	0	地域振興課	地区づくり活動への支援・相談機能の充実	実施	実施	実施	実施			実施	B
2	住民参加による総合振興計画の見直し(進行管理)	92	企画財政課	進行管理の実施	未実施	実施	実施	実施			実施	A
3	氷川まつりなどのイベントへの参画、住民交流	49	地域振興課	来場者数(人)	7,000	8,000	中止	中止			8,000	B
4	まちづくり条例の運用	0	地域振興課	まちづくり条例に伴う事前協議の実施	実施	実施	実施	実施			実施	B
5	住民自治組織の育成	0	地域振興課	自治組織の育成	実施	実施	実施	実施			実施	B
6	住民自治活動の広報・情報交流	0	地域振興課	町広報紙の活用や地区づくり新聞発行地区数(地区)	2	0	0	0			10	C
7	まちづくりの運営体制の強化	0	地域振興課	NPO団体の設立支援(団体数)(団体)	0	0	0	0			1	C
8	住民自治によるまちづくり活動支援事業	4,042	地域振興課	全地区においてまちづくり活動の実施	実施	実施	実施	36			実施	B
9	地区活性化交付金業務 行政区活動活性化交付金	20,114	総務課 地域振興課	類似補助金との統合	未実施	検討	実施	実施			実施	A
10	地区公民館建設支援事業	275	生涯学習課	地区公民館施設の充実	実施	実施	実施	実施			実施	A
11	地区館活動助成 (行政区活動活性化交付金に統合)	- (9に含む)	生涯学習課	地区館活動の活性化	実施	実施	実施	実施			実施	A
12	地区づくり体制の確立	0	地域振興課	自主的な地区づくり会議の開催	実施	実施	実施	実施			実施	B
13												

【今後の方針】

<p>施策の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・【地区別計画の推進支援】新型コロナウイルス感染症の影響により、地区づくり活動において実施ができない地区が見られた。行政区活動活性化交付金として地区の交付金を統合したことにより、区によっては地区づくりを担う役員が不在となる事象が生じ、活動の偏りや区長負担の増加が見られる。 ・【総合振興計画の進行管理】行政評価システムへの入力作業や施策評価表作成など事務局からの働きかけやスケジュール管理が必要。 ・【氷川まつりなどのイベントへの参画、住民交流】隔年で開催地を交互に変更しているため準備等が煩雑である。また、竜北公園開催時には氷川まつりとは別に桜フェスタを翌週に行っているが、小規模の同内容イベントを同時期に実施することの意義を検討する必要がある。 ・【まちづくり条例の運用】開発建築行為を計画する事業者に対して、まちづくり条例に基づいた適正な土地利用の理解を求める必要がある。 ・【住民自治組織の育成】地区により自主的に活動するための組織形成を実施しているが、役職者の負担が大きく地区全体での活動としての意識づくりが必要。 ・【住民自治活動の広報・情報交流】実施した事業について、年度末報告で把握することはできるが、タイムリーに発信するには地区からの情報提供体制が必要。 ・【まちづくりの運営体制の強化】体制の強化を図るための民間団体の掘り起こしなど強化体制の構築が出来ていない。 ・【住民自治によるまちづくり活動支援事業】地区別計画に沿った活動を各地区で実施されてはいるが、毎年同じ活動実施や実施のなされていない項目もあり、計画の目的である地区の理想に近づける活動に繋がっていない地区も見られる。新型コロナウイルスの影響もあることから、同じ事業のみ実施していた地区にも新たな活動を展開する助言等が必要である。 ・【行政区活動活性化交付金】各種補助金を統合したことにより、区長や地区会計に負担が偏っているように感じる。 ・【地区づくり体制の確立】自主的かつ継続性のある地区づくり制度を推進する。
<p>今後の施策展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・【地区別計画の推進支援】コロナの状況による地区づくり活動の提案。区ごとの地区づくり体制の状況を把握したうえで計画実現のための助言を行っていく。 ・【総合振興計画の進行管理】今後も施策事業の成果検証を行い、PDCAサイクルに基づく総合振興計画の進行管理を行っていく。 ・【氷川まつりなどのイベントへの参画、住民交流】将来的にはコストダウンを図りつつ開催地を一本化したい。 ・【まちづくり条例の運用】土地利用計画及びまちづくり条例に基づいた適正な土地利用を推進する。 ・【住民自治組織の育成】地区住民が自主的な組織運営ができるように助言・提案を実施する。 ・【住民自治活動の広報・情報交流】情報交流の場の創出とまちづくりニュースリリースのような情報発信・広報手段の確立 ・【まちづくりの運営体制の強化】民間団体の掘り起こし ・【住民自治によるまちづくり活動支援事業】新たな活動を展開する助言・提案に向けた地区の現状の把握 ・【行政区活動活性化交付金】引き続き行政区活動に交付金交付を実施するとともに、地区ごとの意識づくり（申請負担の軽減）に向けた取り組み検討 ・【地区公民館建設支援事業】地区集会所施設等を建築（増改築及び修理を含む。）しようとする地区に対して補助金を交付しており、今後も継続していく。 ・【地区づくり体制の確立】毎年、行政区活動活性化交付金の説明を年度初めに開始し、地区づくり活動の活性化のために体制の充実及び地区での協議実施を推進する。

【評価指標】

- A: 目標に向かって順調に進んでいる
 B: 目標に向かってある程度進んでいる
 C: 目標に向かってあまり進んでいない
 D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
 総合評価の目標: 施策の方針

総合評価	B
------	---

【今後の方針】

<p>施策の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・【まちづくりリーダー研修機能の強化】まちづくりの中心となる人材が不足しており、人材育成が急務である。 ・【人材ネットワークの充実】民間の任意団体では積極的な活動を行っているが、町独自での取り組みは行えていない状況にある。 ・【大学連携によるまちづくり事業】連携協定を締結した熊本高専との交流を図っていくとともに、町独自の取組を進めていく必要がある。
<p>今後の施策展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・【まちづくりリーダー研修機能の強化】町が抱える課題解決のために、町の魅力を高め、発信することができる人材の育成を行っていく。 ・【人材ネットワークの充実】任意団体が持つノウハウを活用し、支援及び育成に関わっていく。 ・【大学連携によるまちづくり事業】熊本高専と連携協力し、住宅政策やICTを活用した子どもたちへの教育支援に関する調査研究を進めていく。

【評価指標】

- A: 目標に向かって順調に進んでいる
- B: 目標に向かってある程度進んでいる
- C: 目標に向かってあまり進んでいない
- D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
総合評価の目標: 施策の方針

<p>総合評価</p>	<p>C</p>
-------------	----------

【今後の方針】

<p>施策の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・【地区連携事業の検討】連携を必要とする事業や地区からの要望の有無を調査する必要がある。 ・【テーマ型住民活動支援制度の確立・充実】新たな団体の発掘、育成が必要と思われる。 ・【地区の各種団体の維持・設立の促進】各地区の団体や組織について把握できていない。
<p>今後の 施策展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・【地区連携事業の検討】世帯数が少なく、地区づくり活動の実施に苦慮している地区に対し、地区連携事業の提案・推進を図る。 ・【テーマ型住民活動支援制度の確立・充実】事業に取り組んでもらうために詳細な内容説明と具体的な活用方法について周知する必要がある。 ・【地区の各種団体の維持・設立の促進】区長などに団体の加入状況を調査し、状況を把握する。また、現存する団体については維持に努める。

【評価指標】

A: 目標に向かって順調に進んでいる
 B: 目標に向かってある程度進んでいる
 C: 目標に向かってあまり進んでいない
 D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
 総合評価の目標: 施策の方針

<p>総合 評価</p>	<p>C</p>
------------------	----------

【今後の方針】

施策の課題	<ul style="list-style-type: none">・【人材育成の推進、機会の創出】継続した研修機会の創出ができていない。・【役場内に政策研究会の設置及び活動推進】未来まちづくり研究会の取組内容について、情報発信していく必要がある。
今後の施策展開	<ul style="list-style-type: none">・【人材育成の推進、機会の創出】まちづくりに携わる職員のスキルアップにつながる研修を開催する。・【役場内に政策研究会の設置及び活動推進】町の課題の調査・研究など活動推進のための継続的な支援を行う。

【評価指標】

A:目標に向かって順調に進んでいる
B:目標に向かってある程度進んでいる
C:目標に向かってあまり進んでいない
D:目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標:数値目標
総合評価の目標:施策の方針

総合評価	B
------	---

【今後の方針】

施策の課題	・ 各種交付金や補助金を一元化した、項目が多岐にわたるため、交付申請に係る区長負担が大きい
今後の施策展開	・ 継続して支援を行う。

【評価指標】

A: 目標に向かって順調に進んでいる
B: 目標に向かってある程度進んでいる
C: 目標に向かってあまり進んでいない
D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
総合評価の目標: 施策の方針

総合評価	A
------	---

【今後の方針】

<p>施策の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・【まちづくり情報銀行、まちづくり酒屋の機能の拡充】現在の運営を行いながら、関連する課題を整理し、新規の活用方法の検討を行う必要がある。 ・【電子自治体による情報基盤の充実】オンライン申請の実現に向け、ベンダー等との協力及び連携が必要である。また、職員のスキルアップが必要。 ・【公共施設管理計画に基づく管理事業】個別管理計画の策定により、公共施設の運営方針及び維持管理方針が明確になった。本計画の内容を元に、総合管理計画の見直しを行うとともに、個別計画の進捗管理及びフォローアップを行っていく必要がある。
<p>今後の施策展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・【まちづくり情報銀行、まちづくり酒屋の機能の拡充】課題整理の実施と県内外の同規模施設の運営内容について情報収集を行う。 ・【電子自治体による情報基盤の充実】自治体DXの実現に向け、研修会等へ参加し、担当者のスキルアップを図るとともに、既存システムの活用や、AI・RPAの活用を含めた全庁的な取り組みを行っていく。 ・【公共施設管理計画に基づく管理事業】個別管理計画の策定をふまえて、令和3年度に公共施設等総合管理計画の見直しを行う。

【評価指標】

A: 目標に向かって順調に進んでいる
 B: 目標に向かってある程度進んでいる
 C: 目標に向かってあまり進んでいない
 D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
 総合評価の目標: 施策の方針

<p>総合評価</p>	<p>A</p>
-------------	----------